

令和２年度第１回坂戸市総合教育会議議事録

|       |      |                                                                                                                                          |
|-------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 会議の名称 |      | 令和２年度第１回坂戸市総合教育会議                                                                                                                        |
| 開催日時  |      | 令和２年６月２５日（木）      開会：午後４時００分<br>閉会：午後４時２４分                                                                                               |
| 開催場所  |      | 坂戸市役所 第二応接室                                                                                                                              |
| 出席者   | 構成員  | ○坂戸市長 石川 清<br>○教育委員会<br>教育長 安齊 敏雄<br>教育長職務代理者 小川 一信<br>教育委員 蓼沼 康子<br>教育委員 松井 正樹<br>教育委員 毛利 陽子                                            |
|       | 事務局等 | ○会議の事務局（教育委員会）<br>教育部長 清水 満夫<br>教育部長 谷口 義明<br>次長兼社会教育課長 岡田 全弘<br>副参与兼図書館長 近藤 猛<br>教育総務課長 岡本 行弘<br>教育総務課係長 藤野 陽介<br>○市長部局<br>総合政策部長 楠本 圭司 |
| 会議次第  |      | １ 開会<br>２ 挨拶<br>３ 協議事項<br>（１）図書館における新しい生活様式について<br>（２）その他<br>４ その他<br>５ 閉会                                                               |
| 傍聴者   |      | なし                                                                                                                                       |
| 発言者   |      | 発言内容                                                                                                                                     |
| 事務局   |      | ただ今から、令和２年度第１回坂戸市総合教育会議を開会させていただきます。はじめに、石川市長より御挨拶をお願いいたします。                                                                             |
| 市長    |      | 本日は、令和２年度第１回総合教育会議を招集させていただきましたが、お忙しい中ご参集いただき、ありがとうございます。<br>今回は、令和２年度になりましてから第１回目の総合教育会議となります。                                          |

|     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事務局 | <p>本市教育行政の様々な課題を今後も、教育委員会と連携して、教育行政を推進していくため、有効的な会議にしていきたいと思いますので、よろしくお願いします。</p> <p>本日の会議では、図書館における新しい生活様式について、ご協議いただきたいと思いますと考えております。</p> <p>教育行政における重要課題でありますので、慎重審議賜りますよう、よろしくお願いいたします。</p>                                                                                                                                                                                 |
| 教育長 | <p>続きまして、安齊教育長より御挨拶をお願いいたします。</p> <p>坂戸市教育委員会を代表いたしまして、一言御挨拶を申し上げます。</p> <p>本日は、石川市長におかれましては、公務ご多用の折、総合教育会議を開催していただき、誠にありがとうございます。</p> <p>本日の会議では、図書館における新しい生活様式について、市長から直接ご意見を賜り、それらを踏まえ教育委員会としても十分協議し、進めてまいりたいと思います。</p> <p>様々な教育課題に柔軟に対応していくには、教育委員会と市長部局関係各課との連携が必要不可欠であると考えています。</p> <p>この総合教育会議を通して、市長と教育委員会との更なる意思疎通を図り、今後の教育行政の推進を図ってまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。</p> |
| 事務局 | <p>それでは、議事に入りたいと存じます。議事進行につきましては、坂戸市総合教育会議設置要領第4条第1項の規定により、石川市長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 市長  | <p>それでは、次第に沿って進めてまいりますので、皆様の御協力をよろしくお願いします。はじめに、次第3協議事項（1）図書館における新しい生活様式について、を議題といたします。事務局より説明をお願いいたします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 事務局 | <p>図書館における新しい生活様式につきまして、御説明を申し上げます。資料の二枚目をご覧ください。現在の図書館サービス網でございますが、中央図書館を中心に勝呂分館と大家分館を両翼に展開しております。このほか西坂戸には公民館図書室をサービスポイントとしている他、入西地域交流センターと北坂戸出張所に返却ボックスの設置、東坂戸出張所でも返却資料を預かるなどのサービスを展開してい</p>                                                                                                                                                                                 |

ます。3ページをご覧ください。平成30年度までの利用状況でございます。中央図書館で若干上昇傾向にありますが、ほぼ横ばいの状況でございます。4ページをお願いします。世代別の利用状況を円グラフにしたものです。約87%の方が60歳以上の利用者となっております。このほか学習室の利用者は学生世代の方を中心にご利用いただいておりますので、図書館としましては、ここをターゲットに社会人層の方たちがこれまで以上にご利用いただけるよう努めてまいりたいと考えております。5ページをお願いします。こちらは平成30年度に実施した図書館アンケートの抜粋でございます。サービスの充実として求めるものを三つあげていただいたものですが、この中で図書館に拘らず資料の受取や返却が出来ることが求められております。また、人数は少ないですが、具体的に電子書籍の貸出しを望む声もございました。こちらは年代別にみますと、25件中18件、約72%の方が10代から50代の方でした。この電子書籍サービスを提供致しますと、自宅や職場などから貸出や返却が24時間いつでも行えるなど、利用者の生活のリズムの中で図書館を利用できるようになります。6ページをお願いいたします。このグラフは電子書籍の出版市場を予測したもので、公立図書館の電子図書館に関しての資料ではございませんが、今後数年で4,600億円程度になると言われております。それでは電子書籍導入のメリットを利用者側、図書館側からご説明いたします。7ページをお願いいたします。始めに利用者側のメリットですが、図書館の開館日や開館時間、天気や距離など気にせず、いつでもどこでもインターネットを通じて検索、貸出、返却、予約、閲覧が可能になります。また、読み上げ文字サイズの拡大なども可能なため高齢者の方にも読みやすくなります。8ページをお願いいたします。次に図書館側のメリットですが、当然ながら窓口での貸出や返却処理が不要になります。また返却期限に自動的に返却処理されますので、督促処理も不要になります。このほか、蔵書スペースが不要である、郷土資料などの独自資料の電子書籍の公開、これまで書き込みなどが懸念されて蔵書出来なかった資料を取り扱うことが出来るなどがあげられます。しかしながら、電子書籍の導入には課題もあります。それは何といたっても図書館向けのタイトル数が少ないことです。後ほどご説明いたしますが、9ページをご覧ください。こちらは公共図書館向けに販売されている電子書籍のタイトル数でございます。上段のTRC-DLは実用書中心の売り切りタイプのもの、下段は出版社が合同で販売している期限等が設定されたタイトル数でございます。重複しているタイトルを除くと約8万タイトルとなります。10ページにございますとおり、インターネット通販のアマゾン等で個人

|            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|            | <p>向けに販売されているタイトル数が５０万タイトルですのでその差は歴然でございます。つぎに参考として過去５年間の図書資料購入に係る予算の推移を明示します。１１ページをご覧ください。おかげさまで、３，０００千円を増額していただいた以降、１５，０００千円で推移しており、この中で図書７千冊前後とＣＤやＤＶＤ資料を購入しております。つぎに１２ページをお願いいたします。こちらは、図書購入費等の状況を県平均を中心にあてはめたもので、中央付近にあるグレーの部分が県平均でございます。残念ながらすべての項目で平均を下回っている状況でございます。１３ページをご覧ください、電子書籍を導入する際の概算費用です。イニシャルコストを５，１７０千円としましたが、初期費用は７７０千円、維持費の年間６６０千円と電子書籍１，０００タイトル購入分の３，７４０千円になります。また、ランニングコストですが２，１５６千円としましたが、維持費の年間６６０千円と、電子書籍４００タイトル購入分１，４９６千円としました。</p> <p>説明は以上です。よろしくお願いいたします。</p> |
| 市長         | 皆さんから、御意見等をお願いします。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 松井委員       | 電子書籍の図書館向けタイトル数が少ないとの課題もあるが、どのようなタイトルの図書が電子書籍となっているのですか？                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 図書館長       | 書籍にもよりますが、新刊の発行書籍が電子書籍となるまでには、時間がかかります。実用書に関しては、比較的早めに電子書籍となります。ライトノベルに関しても早めに電子書籍となります。電子書籍で最も多いタイトルは、洋書となります。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 小川教育長職務代理者 | 世代別利用状況では、６０歳以上が８７％を占めている図書館で、６０歳以上の方がインターネットを使っている割合が分かりますか？                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 図書館長       | 図書館では、６０歳以上の方がインターネットを利用している割合は分かりませんが、オンラインのサービスとして音楽配信を提供しており、このサービスの利用者は、主に４０代から７０代の方が多くおります。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 総合政策部長     | 国の２０１８年情報通信白書によると６０歳から６９歳の方のインターネット利用率は７６．６％、７０歳から７９歳は５１．０％、８０歳以上は２１．５％になります。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

|      |                                                                                                                                 |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 市長   | インターネットを使う方が今後は増えていくので、利用者は増えていくことが見込まれます。高齢者も増えていくと思われます。                                                                      |
| 蓼沼委員 | 今後、タイトル数も増えていくのではないかと思います。                                                                                                      |
| 市長   | 今後、電子書籍サービスが必要になることと思います。電子書籍サービスの実施に向けて検討していきたいと思います。                                                                          |
| 市長   | ほかに御意見等はございませんか。<br>(なしの声)                                                                                                      |
| 市長   | 図書館における新しい生活様式について御協議いただきましたが、ほかにないようでしたら、以上で終了したいと思いますが、いかがでしょうか。<br>(異議なしの声)                                                  |
| 市長   | 御協議いただきましてありがとうございます。<br>今後も本日の協議内容を踏まえ、教育施策を進めていただきますようよろしくお願いします。<br>(2) その他について、ですが、意見等を含め何かございましたらお願いいたします。<br>(なしの声)       |
| 市長   | ないようでしたら、以上で協議を終了します。御協議いただきましてありがとうございます。                                                                                      |
| 事務局  | 続きまして、次第4、その他についてですが、協議事項以外で御意見等を含め何かございましたら、お願いいたします。<br>(なし)<br>ないようでしたら、以上をもちまして、令和2年度第1回坂戸市総合教育会議を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。 |